

平成 26 年度第 2 回介護保険運営協議会会議録

日時：平成 26 年 10 月 7 日(火) 午後 7 時～午後 9 時

場所：二宮町役場 第 1 会議室

出席者：介護保険運営協議会委員：11 名

事務局：健康福祉部長・健康長寿課長・介護保険班長・健康長寿班長

包括支援センター職員：2 名

傍聴者希望者：2 名

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議題

- (1) 二宮町高齢者保健福祉計画及び第 6 期介護保険事業計画について（資料 1・2）
事務局より資料 1、第 1 章の説明

会 長 今のご説明の中で、何かご質問等いかがでしょうか。

事務局 計画策定の趣旨ということで、まとめさせていただいておりますが、計画策定には理念があり、前回は「自立で安心、いきいきとふれあうまちづくり」という形で、理念を設定させていただいて、今回も皆さんの意見を聞きながら、理念についても何か意見があればお伺いさせていただきたいと思います。

何か付け加えた方がよいということがありましたらお願いします。

委 員 理念という形ではないですが、介護保険の計画上、私が常々思うのが、この介護保険サービスで安心を担保できるのは重要ですが、一方で、サービスを利用しなくても、がんばるという方を支えるインセンティブを与えられるようなものがあると、単なるサービス提供の話ではなく、「長寿のまち」を目指す上で大事な要素になるのではないかと思います。もちろん保険なので、福祉のセーフティネットの部分と、自分の責任でサービスを利用しないで済む努力とあわせて目標にすると、もっと大きく、介護保険の精神を膨らませていくことができるし、同時にできるだけ、サービス利用を大きくしないという部分につながることを、何か打ち出せたら良いと思います。

そういった部分はもう少し取り上げていただいた方が良いかと思いました。

会 長 ご意見ありがとうございます。

事務局 元気な方の取り組みということで、介護予防事業やにぎわい塾といった出前講座の取り組みもさせていただいております。

委員 努力が実際につながらないということで、お金で返してほしいということはないですが、メリットを感じられるものが、施策の中にあればと思います。表彰するといったことはないですが、体が不自由にならないことが幸運だと思って、同時に努力の結果の場合もあるし、社会全体がそういう意識を持たないと、先行きが厳しいと思います。そういうことを大事にして、改めて打ち出せる方法があればと思います。安心安全を提供するのが責務ですので、直接的にそういうことを言うのはどうかと、事業者としては思いますが、ただ、同時にこれだけ長寿社会になって、簡単なことでは済まないという思いはあります。

そこを何らかの社会で評価できる体制と、何らかのインセンティブを持たせるようなものが、計画の中には必要な要素としてあるのではと思います。

会長 ありがとうございます。他に何かありますか。

事務局 1 ページの下から 7 行目になりますが、地域支援事業の移行という部分があり、今回の改正の中で、予防給付全体が移行してしまうのではなく、通所介護と訪問介護のところ移行する形になりますので、その部分を訂正させていただきます。

会長 計画の概要というところに関しては以上となります。二宮町に関しては高齢者保健福祉計画と介護保険事業計画が一体ということですが、これは地域によって違うのですか。だいたい同じようだというのですが、そういう位置づけでよろしいでしょうか。第 1 章については終わります。続きまして、第 2 章について、事務局からお願いします。

事務局より資料 1、第 2 章の説明

会長 第 2 章について、質問や意見はありますか。

委員 人口推計の値は今までこれを使ってやってきたのですか。今までの予測と実際値の差はありますか。二宮町が過去に使っているのであれば、実績が出ていて、それと差があるのですか。規模が小さくなると変動率が高くなると思います。出生率の差が大きくあったり、その特徴が出て来ると思います。そういうのを検証されているか伺いたいです。

事務局 第 5 期の人口推計が、平成 26 年で 28,900 人。ここで見ると、29,500 人。平成 24 年頃だったと思いますが、外国人の住民登録の絡みで人口の統計の取り方が変わっておりまして、それで誤差があるかもしれないです。

委員 人口が小さければ小さいほど、コーホート率が大きくなるので、二宮町で特に補正したりする必要があるのか、というところが聞きたいと思います。

事務局 今まで毎回コーホート要因法で行って来ました。どちらにしても 3 年のスパンで見直すということがありますので、この現計画では、26 年の人口が 28,900 人だったのが今現在 29,400 人です。若干前回の見込みが少なくなっております。

- 委員 介護保険サービスの見込みの総量計算にも関わってきますから。
- 事務局 特に高齢者人口が要介護の認定者数を出すうえで重要です。
- 委員 どこが一番大事か数字の見方がわかれば良いですね。
- 事務局 コーホート要因法でやっても、実際は違って来るということもあります。
- 委員 コーホート要因法によっては、従来よりは人口の減りが少ないような気がします。
- 委員 9ページの介護保険の認定率の推移が全国平均より低いというのは、二宮町の特徴で、良い状況にあります。介護予防も含め、自助努力が進んでいるのか、あるいは認定手続き上に差異があるのか、何の要因で良い状態にあるのか、わかっているものがあればお願いします。
- 事務局 介護予防は当然ながら、二宮町の温暖な気候的な要因や環境的な面もあると思います。一人暮らしの高齢者や高齢世帯の方は、自立されている方が多く自活したり自炊して生活していることも要因として感じられます。認定の更新については平均的に申請があり、新規についても週に5件くらいはきています。
- 委員 良い状況ということで申し上げますが、高齢者の単身世帯、夫婦世帯が多いといった特徴があり、介護保険の利用に関する認識が、認定を受ける意識にどのように働いているのか。認識が低い為に認定が低くなっているといった問題がなければ良いのですが。
- 事務局 高齢者の一人暮らしが多いということで、民生委員さんに見守りしていただいたり、地域包括支援センターや、町でも二次予防事業の対象者の把握等、認定が必要な方については、100%ではないですが、情報を発信しておりますので、必要な方については認定申請をしていただくという形で行っています。
- 事務局 居宅サービスの利用状況を出させてもらっていますが、実際、サービスが増えたり減ったりというものがあるか状況を教えて下さい。
- 委員 今お話に出ていた、独居の高齢者とか、高齢者のご夫婦の世帯というのが非常に多いというのは日頃感じておりますが、食事を良く召し上がり、食事を楽しく取られている高齢者は、とても元気でいらっしゃると思います。ヘルパーさんが入って食事を作っているというサービスもありますが、趣向や栄養状態を見て、相談にのって、その方に合った具体的な食事の提案を行う、栄養面等を指導してくれるというサービスがあれば良いのかと思います。朝食とかは、単調で毎日同じという話も聞きますので、そんなに手間をかけることができる家庭ばかりではないですが、良いアドバイスをしていただけるサービスがあればと思います。
- あと、荒れている家もあります。片づけさせてくれない家庭もありますが、高齢で手を付けられないという家庭も結構あります。ヘルパーさんには日常使うような生活空間の掃除はしてもらえますが、違う部分は、掃除できないというのが現状です。経済的に余裕があれば、お金を払って業者に頼めばというのがありますが、そこまで手が回らない家庭もあるので、そのようなサービスがあればと思いました。
- 事務局 ケアマネさんに聞きたいのですが、12ページから14ページにサービスがありま

すが、ショートステイが使いづらいということと、なかなか緊急時に使えないということがありましたが、今現在どういう状況ですか。

委員 ショートステイは、2～3か月先のものを予約するという形になります。1施設で、10床20床というところが多く、すぐに埋まってしまふところが多いです。今お話がありました、使いづらいという現状は変わらないと思います。緊急の時に空いていけば使えるが、空いていないとすごく困ります。私は1人の利用者で2か所とか、ショートステイを使える施設を確保しておいて、1か所がだめなら、もう1か所ということに使っています。今、デイサービスは、業者さんごとにニーズに合わせて利用させていただくというところがほとんどだと思います。ショートステイは、数も少ないせいか、こちらの都合通り行かないことが多いです。予約をしたところを1日減らしたいとなっても、施設の都合でその期間でしか使えません。最近では、ショートステイ専門の50床くらいある、大きな施設も出来たりしているので、こういうところは緊急でも受け入れてくれる体制も整っていますし、比較的予約も取れやすい状況です。そういった施設が増えてくると、改善してくるのでは、と実感しています。

事務局 14ページのところの地域密着型サービスで小規模多機能型居宅介護の平成25年の計画値が実績より下がっているというのがありますが、色々なことが使えるということではありますが、実際の利用者の状況はどうですか。

委員 小規模多機能型居宅介護を使っておられる方が、今のところいないので、推測になってきますが、デイサービスは使い勝手も良くて、そちらを使われている方が増えていると感じています。小規模というだけに、利用人数も限られて、待つこともあるので、待つのであれば、他のデイサービスを使おうと考えるのではとおります。

委員 小規模多機能は在宅のケアマネさんから離れるので、在宅で総合的にサービスを受けられる方が希望されて、月単位になります。これは、全体の利用が減っているのでしょうか。要望が減っているという数字がここにあります。この中で拝見すると、小規模多機能も、予防じゃない方が減っていないような気がします。

事務局 計画よりは若干減っている気がします。

委員 認知症の認定をされている方の希望が多いと伺っておりますので、予防の方は少なくなっています。ショートステイも複合的に利用したいという方が多いということで、要介護の町民の方が使えるようにしているということですね。

会長 二宮町は、自立されている方が多いので、介護が必要そうな方に声をかけても、まだそういう世話は受けたくないという方が結構おられます。二宮町は小さなまちなので、小回りがきいて、できるだけ独居の方のケアをして、皆さんにいろいろ聞いて、民生委員や、役場の方で一人ひとり行き届いているのではと思います。もっと大きなまちでは、そこまで目が届かないというところもあると思うので、それは二宮町の良いところで、今後継続してよりよいまちにしていくのが良いと思います。他にないようでしたら、次の資料2に移らせていただきます。事務局より、説明をお願いします。

事務局より資料2の説明

会 長 今の説明の中で、何かご質問等いかがでしょうか。何もないようでしたら、次第に沿った形で進めていただきたいと思います。議題（1）については終了します。次は、議題（2）に移りたいと思います。事務局より参考資料1・2についてご説明をお願いします。

（2）高齢者アンケート調査について（参考資料1・2）

事務局より参考資料1、2の説明

会 長 今、説明いただいた、参考資料について何かありますでしょうか。

委 員 私ももう少しで、高齢者になりますので、考えることがあるのですが、二宮町の高齢化が進むということがネガティブに受け止められているように伝わってきます。実は二宮町は昔から「長寿の里」という風に言われていて、羨望のまちだと思います。それは、暮らしやすかったり、落ち着いていたり、気候も良いというところで普通の健康状態でのお年寄りであれば、とても長生きできるという土地柄にあると思います。

それがいつの間にか、皆さんが長生きするので、高齢者が増え、若年者が減るので、当然高齢者人口としては増えていきます。高齢者が多いまちというのは、沈んだ印象とは限らないと思います。だんだん遠くに買い物等行きたくなりますので、地元で買い物を済ませたいとか、都合の良いものを見つけて生活するという方が多くなると思うので、私は地域活性化の大きな要素になりうると思っていて、もっと暮らしやすいことをアピールすべきかと思います。それが、予防事業の対象者にとっても、ますますいきいきできるポイントになるような気がします。

参考資料を拝見しましたら、80代90代の就労者が意外に多く、第一次産業に従事をしていたり、実際に役割を持っている後期高齢者の方は相当いるのではと感じられました。70代80代の元気な方と接しますが、自分のご飯はつくりたいとか、基本は人の世話にはなりたくないようです。援助型、介護型のサービスは、もうちょっと引いて、実際私たちよりできることはたくさんあるので、自立できるように、後期高齢者の料理教室があっても良いと思います。高齢の方が料理番組を見て作ったりしていますが、話し相手がいないとか、ある住宅街でベンチを置かれていると、散歩の方や、ジョギングの方がよく通るので、高齢者も多く、そのベンチがよく使われているようです。

先程の円グラフからも、引きこもりはすべてのリスクに影響を与えると改めて感じまして、お友達とは話したいけど、チャンスがない。そういう繋がりができれば、と思いました。高齢者は知らない人とはあまり会いたくはなく、どこかで関わりのある人と会いたいので、そういうものをうまく消化できないかと思います。

委 員 介護予防的なものになると、参画意識や、参加する人というのはプログラムの内容にもよりますが、男女差の性差が参画意識の中にあると思います。感覚的に男性の参画意識が少ないのは一般的な話で、女性は意識しなくても良いが、男性は参加する様子もない。もう1つは、二宮という場所柄、自分の意志で歩いてみようという、ウォーキングのルートがありません。男性は集まるということがないので、1

つ1つ介護予防に結びついているにも関わらず、そういう意識にならない。また、自分で自分の事を考えたい方もいると思いますが、環境的に乏しいところもあります。数字には出ておりませんが、男性の数値が低く、男女差があるとすれば、今後の施策の中でどうやってその辺りを補っていかうかというところに繋がっていくと思います。

事務局

二次予防対象者把握事業を行い、介護予防に繋げるということで、二次予防事業を行いました。やはり男性の方の参加は少ないです。一次予防でもなかなか男性の方は参加人数には反映しづらいというのがあるので、今言われたようなことは我々の課題でもあります。そういった意味で男性の方も参加でき、介護予防をイメージさせないような事業展開を図っていけるよう今後とも検証していきたいと思えます。

今、カラオケ体操というのを進めており、業者さんと提携して、歌うことで手足を簡単に動かし楽しむ、昔の映像を見て認知機能を養うということ、まちのどこかで集まってやりましょうと言ってもなかなかみなさん集まりづらいので、我々から各地区に出向き、児童館等でやっています。今現在1,000人を超える方に参加して頂いており、各地区での実施を目指して、シルバー人材センター等にもお願いし、男性の方にも積極的に参加していただいています。継続的にやっていくことに意味があるので、介護予防を意識しないように、皆さん集まり、それが仲間づくりに繋がって、最終的には地域づくりに繋がるような事業ということを目指し、結果明るいまちになっていくように考えております。ぜひ皆さんカラオケ体操に参加する機会がありましたら、よろしくお願ひします。

委員

老人クラブの役員をやらせていただいて、この場に出ささせていただくようになりました。カラオケ体操ももちろんやっておりますが、介護という言葉が気になります。なぜ介護だけなのか。介護の運営委員会なので仕方がないですが、二宮町の老人クラブ連合会は、二宮町が各地区26単位に分かれており、そこには必ず会長さんがいて、1つの組織ができて、それが集まって二宮町老人クラブ連合会になり、今1,600人の会員がいます。全国老人クラブ連合会で100万人の会員を募りましょうという運動が展開されています。二宮も各地域の地区長さんにお願ひし、会員募集の案内を回覧してもらったり、掲示板にポスターを貼ったり、一生懸命運動していますが、地域性もありなかなか会員が増えません。介護とは程遠い行事としては、運動会やパークゴルフ大会とかニュースポーツの道具を、新規事業として4つ5つ揃えて、各会員クラブでそれができるように貸出しています。今のところ富士見さんが活発です。ロコミが一番良いですが、それでも会員になる方が少ないので、役場の方にもお世話になっております。回覧が回った時に、介護をしないで元気に過ごすということで、少し興味を持って見ていただけたらと思います。そして、直轄サークルというのがあり、ゲートボール、グラウンドゴルフ、民謡、フォークダンス等あり、そういうクラブに入って、クラブ活動している方もおられます。直近で、10月10日に芸能大会をします。そのために各会員クラブが集まって、練習をします。その練習をすることが、介護なくて良いくらい体が活性化するというところに繋がっています。二宮町老人クラブ連合会に26単位ありますので、興味を持っていただけるなら、ぜひ会員になっていただければと思います。

委員 私は、町の社協さんの話も聞いていて、増えないということも聞いています。ほんとに幅広い活動をされているにも関わらず、情報がなかなか届かない部分があるように感じます。

委員 この前の社協二宮に、茶屋、川句サロンのことが一面に写真が出ていたと思うのですが、立ち上げから2回目ですが、今まで来られたことがないような方も、40～50名、月に2回来ていただいて、町内なので全く知らないことはないのですが、その時に出会った方とただお話するだけで2時間です。その他に囲碁や将棋、手芸をその場でしながら過ごすということをしています。

委員 富士見は本当に活発で、私も当然「ゆめくらぶ」の会員になる資格はあるのですが、若い頃からやっていたものをまだ続けていて、自分では健康維持はできていると思っています。それから、回覧で介護予防教室のお誘いが入ってきますが、それは拒否してしまいます。今していることができなくなったら、そういうところに入って行こうとは思いますが、今はやっていません。一次予防対象者、二次予防対象者とかにはなりたくないと思いつつ、まだ大丈夫だと思っています。

委員 よくおしゃべりをして、皆さんと交流をすると、認知症になりにくいということを知りますので、やはり人が集まる場所に出かけるのが良いと思います。

(3) その他

会長 つづきまして議題(3)のその他になります。何かありますか。

委員 二宮町以外でも大きな問題ですが、働き手を得難いということが非常に深刻で、事業者の努力が必要なのだと思いますが、社会全体の認識と、世界的な支えあい、社会的な自由性を認識されないと、理解が広がらないと思っています。神奈川県は具体的な対策がない中で、東京と組んで外国人労働者や、国がやってきた施策にも呼び起こしをし、導入する方法を考えて着手しようとしています。間に合うようなタイムテーブルになっていません。働く人がいなければ、サービス提供できない現実に、募集をかけても応募する人がいないという状況になっています。私は5年くらい前から、嫌な感じはしたのですが、その時期までは認識していなかったもので、非常に大きな危機感を持っています。計画を立てただけでどうにもならないので、そこは何か認識を促す機会があれば良いと思うし、こういった、介護や福祉のサービスそのものを魅力のあるものにするという責務もあると思いますが、同時にそのことを認識してもらおうよう、ご協力を得られるようなことを考えていただければと思います。

会長 では、これで(3)の議題を終了します。

事務局 本日は長時間に渡り、ありがとうございました。第3回は12月中旬ごろを予定しております。日程決まり次第、ご連絡させていただきますので、調整いただきたいと思います。次回は計画の素案をお示ししていきたいと思っております。

4. 閉会